

## 滝谷 RC 雨天撤退

日程：2008年8月13～15日

メンバー：L河崎、斉藤（記）

日本の登攀史に数々のドラマを生んだ「滝谷」一度は滝谷の岩を攀じてみたいと上高地から北穂までの長いアプローチを行くも、天気には勝てず。折角の夏合宿はポッカトレに終わってしまった。

8/13

爽やかな快晴の空の下上高地でバスを降りた後、8:45 森の奥へと歩き出す。今回の山行は、13日 上高地から北穂小屋のテン場までのアプローチ、ベースを張る、14日 ドーム中央稜の登攀、15日 第四尾根の登攀、16日 下山の予定だ。岩の本チャンの経験の無い私にとってデビュー戦である。計画をたてた5月より待ち侘びていた夏合宿だ。唯一つ、不安に思っていたのは、岩登り以上にコースタイム合計9時間におよぶアプローチだった。足に自信の無い私は一体、何時間で辿り着く事が出来るだろうか。不安を抱えながらも、上高地の景色は癒してくれる。5月に北鎌を登りに来た時に通った道だが、そこから見える景色は、春とは違う良さがあるものだ。左に屏風岩を見上げる辺りからじょじょに、道に傾斜が付き始める。涸沢に着く頃には疲れてグッタリといった感じであった。涸沢での休憩後、きつくなる登りに、あっという間にバテてしまった。何歩か歩いては休みを繰り返す。涸沢から4時間50分掛けて19:45 テン場に到着する。河崎さんに2時間近く遅れての到着である。付近はすっかり暗くなってしまっていた。テントの中で河崎さんに、ラジオの天気予報を、教えて貰うと、翌日14日は天気があまりおもわしくないらしい。数日前の天気予報では、15日から崩れ始めるという

予報であったので、15日は最悪登れなくても、14日は大丈夫であろうと思っていた。その晩は疲れの為早々に床につく。明け方、テントを雨風に叩かれる音で何度も目を覚ます。

8/14

目を覚まし、外を覗くと一面の濃い霧。当然、地面はびしょ濡れだ。8:45 駄目もとで滝谷に向かう。30分程でドーム中央稜取り付きへの下降点に着く。西面に位置する滝谷は特にコンディションが悪く、岩はびしょ濡れであった。すぐさまテントに戻り、再びシュラフに潜り込む。昼すぎから夜にかけて風雨が荒れ狂う。四方八方から聞こえる雷の音に自分への落雷の無い事をただ祈るのみであった。

8/15

朝、前日に引き続き濃い霧が立ち込めていた。8:35 天候回復の見込みは無いだろうと、予定より1日早い下山を開始する。少し下ると雲の下に出たようで、涸沢カールが一望出来た。登りでは途轍もなく長く感じた道のりも下りでは、アッという間の1時間15分で涸沢まで下る事が出来た。涸沢辺りではすっかり天気が良いのだが、北穂、奥穂の上の方だけには、いつまでも雲が被っていた。西から流れて来た雲が滝谷のある西面にぶつかり稜線を越えて消えて行くようだ。涸沢まで天気が良くても滝谷は悪いという事も少なく無いだろう。滝谷の登攀計画を立てる際には、確実に天候の見込みのある時だけに臨んだ方が良いだろう。アプローチがもう少し短ければ、諦めもつく所なのだが。涸沢からは強い日差しを浴びながら、上高地までひたすら下り、15:10 パスターミナルに着いた。こうして夏合宿はポッカトレに終わってしまい欲求不満のまま家路についた。